

International Geography Olympiad 2015

国際地理 オリンピックに ようこそ！

第9回科学地理オリンピック日本選手権
および第12回国際地理オリンピック日本代表選抜大会



<http://japan-igeo.com/>

主催:国際地理オリンピック日本委員会 共催:公益社団法人 日本地理学会、公益社団法人 日本地球惑星科学連合、独立行政法人 科学技術振興機構(JST)

後援:文部科学省、日本地理教育学会、日本地図学会、人文地理学会、経済地理学会、東北地理学会、地理科学学会、地域地理科学会、一般社団法人 地理情報システム学会、公益社団法人 東京地学協会、一般財団法人 日本地図センター 協賛:帝国書院、二宮書店、古今書院、東京カートグラフィック、東進ハイスクール、日経ナショナル ジオグラフィック社

国際地理オリンピックは 地理力を競う

国際地理オリンピックは
3つの種目で競います。

◆記述式テスト(WRT)

さまざまな地理的な現象や地域の課題についての問い合わせに、地形図や主題図、写真などの資料を手掛かりに答えます。答えを導き出す過程も採点の対象になります。

◆マルチメディアテスト(MMQ)

地図、写真、グラフなどを使って、そこで表されている地理的な現象や課題を読み取るテストで、解答は4つの選択肢から選ぶ客観式テストです。

◆フィールドワークテスト(FWT)

指定された地域のコースを歩きながら観察します。いくつかのチェックポイントをまわり説明を受けます。競技者は、観察した地理的な現象や地域のようす、観察できる景観などからメモを取りながら歩きます。そして、課題が出されて作業を行います。また、野外での観察と作業のあと、それらをもとにした問題に答えます。問い合わせが求めていることを的確に表すことが求められます。

「地理オリンピック」の共通言語は英語です。国際地理オリンピック(世界大会)ではすべて英語での出題と解答が求められます(辞書の持ち込みは可)。そのため、科学地理オリンピック日本選手権でも全体の2割の問題は英語による出題・解答です。英語による解答は、上手な文章でなくても、論理的に正しく的確に表現することが大切です。非英語圏の国々からも、多くのメダル受賞者が出ています。

「地理オリンピック」の世界大会や地域大会では、さまざまな国的学生や先生と交流することも目的とするところです。世界には、「地理」を理科の科目のひとつとして学んでいる国もあれば、地理と歴史が補完的な関係を持ち同じ先生が地理と歴史を教える国もあります。さまざまな国・地域から集う学生や先生と交流し、お互いの国の文化、教育などについてさまざまな相違点を共有し合うことは地理オリンピックの大切な役割です。

地理オリンピックの歴史

地理オリンピックのルーツは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」がルーツです。地理学を学ぶ学生が国の垣根を越えて集まり、共同で問題を作成して地理教育の未来を語り合いました。

1994年に行われたIGU(国際地理学連合)の総会(プラハ:チェコ)で、オランダとポーランドの委員が「国際地理オリンピック」を提案しました。それ以降、11回の世界大会と3回の地域大会が行われました。そして2015年には、トヴェリ(ロシア)で第12回国際地理オリンピック iGeo Tver 2015 が行われます。

国際地理オリンピック(世界大会)

第1回大会	1996年	ハーグ:オランダ
第2回大会	1998年	リスボン:ポルトガル
第3回大会	2000年	ソウル:韓国
第4回大会	2002年	ダーバン:南アフリカ共和国
第5回大会	2004年	グディニア:ポーランド
第6回大会	2006年	ブリズベン:オーストラリア
第7回大会	2008年	カルタゴ:チリ
第8回大会	2010年	台北:台湾
第9回大会	2012年	ケルン:ドイツ
第10回大会	2013年	京都:日本
第11回大会	2014年	クラクフ:ポーランド

地域地理オリンピック(地域大会)

第1回大会	2007年	シンチュー:台湾
第2回大会	2009年	つくば:日本
第3回大会	2011年	メリダ:メキシコ

科学地理オリンピック
日本選手権 兼
国際地理オリンピック
iGeo 選抜大会

第1次選抜:マルチメディアテスト

上位およそ100位まで

第2次選抜:記述式テスト

金 銀 銅 メダル授与

成績優秀者を対象とする

第3次選抜:フィールドワークテスト

選抜試験の成績などを総合的に評価して日本代表候補を選考する。
うち4名を日本代表として国際地理オリンピックに派遣する。

国際地理オリンピック
iGeo

1. 記述式テスト
2. マルチメディアテスト
3. フィールドワークテスト

文化交流

金 銀 銅 メダル授与

◆募集要項

参加資格

2014年4月以降、大学およびそれに相当する教育機関で教育を受けていない19歳未満の者。ただし、世界大会の出場選手(4名)は、2015年6月末の時点で16歳～19歳の者から選出されます。

選抜について

■第1次選抜 2015年1月10日(土)

会場：札幌、函館、山形、一関、仙台、新潟、水戸、東京、静岡、名古屋、上越、富山、金沢、京都、福知山、大阪、加古川、岡山、広島、浜田、福岡、久留米、熊本、鹿児島、那覇を予定。

なお、応募状況などにより、会場を変更することがあります。最新の情報をお、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ(<http://japan-igeo.com/>)で確認してください。また、担当の先生が責任を持って試験会場を提供し、試験を実施していただける場合は、特例的に試験会場を設置することができます。ご希望がある場合には、科学オリンピック共通事務局(TEL:042-646-6220、E-mail:info@contest-kyotsu.com)にご連絡ください。検討の上、主催者が決定します。

内容：マルチメディアテスト

〈スライドで提示する地図・図表・写真などをつかった問題に答える客観式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は60分。

選考：テストの成績上位約100名が第2次選抜に進むことができる。

テストの結果は、後日、個人宛てに郵送します。

■第2次選抜 2015年2月22日(日)

会場：東京、大阪などを予定。※前回大会では全国12カ所で実施。

第二次選抜受験者の居住地を考慮して会場を指定します。

内容：記述式テスト

〈地図・資料などの説解を中心とした記述式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は120分。

選考：成績優秀者を表彰し、金、銀、銅メダルを授与します。

成績優秀者の上位から選出された者が第3次選抜試験に進むことができる。

テストの結果は、後日、個人宛てに郵送いたします。

■第3次選抜 2015年3月15日(日)

会場：近畿地方で実施予定。

内容：フィールドワークテスト

〈フィールドワークをもとにした筆記・作図などの試験〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。当該の受験生には直接通知します。

選考：選抜試験の成績などを総合的に判断し4名を日本代表として、2015年8月10日～17日にトヴェリ(ロシア)で開催予定の第12回国際地理オリンピックに派遣します。

問題について

過去の問題は、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ(<http://japan-igeo.com/>)で閲覧することができます。

なお、2010年までは、第1次、第2次選抜の区別はなく、マルチメディアテストと記述式テストを同日に行っていました。

個人情報の取り扱いについて

「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」は、国際地理オリンピック日本委員会(以下、「主催者」という)が主催しています。ご提供いただいた個人情報は、次のように取り扱います。参加申込みされる方およびその保護者は、以下の内容について同意した上で申し込んでください。

1.個人情報の収集目的について

・「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」においては、参加申込みに際して提供された参加申込者本人およびその保護者に関する個人情報ならびに「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の各段階において記録・撮影される写真等は主催者に登録され、主催者が本事業の円滑な運営を遂行するために使用するとともに、本事業に関連する各種広報のために利用させていただきます。

2.個人情報の第三者への提供・預託について

ご提供いただいた個人情報は、「科学地理オリンピック日本選手権兼国

参加申込みについて

申込期間：2014年10月1日(水)～12月15日(月)

郵送は12月10日(水)必着、WEBエントリーは12月15日(月)24:00まで。

申込み方法：郵送またはWEBエントリー

参加申込書を郵送する方法と、申込み専用ページからWEBエントリーする方法があります。どちらの申込み方法でも、個人で申し込む「個人申込み」と学校ごとに団体で申し込む「学校申込み」が選べます。なお、応募にあたっては保護者の同意が必要です。WEBエントリーでは保護者同意欄にチェックを、郵送の場合は保護者の捺印を、それぞれ忘れないようにお願いします。

「個人申込み」

申込み専用ページからWEBエントリーするか、本募集要項に添付された参加申込書に必要事項を記入して下記の郵送申込書送付先に郵送してください。

「学校申込み」

学校申込みには①学校で一括して申込み一般会場で受験する方法と、②自校で在校生徒だけで受験する方法があります。在籍する学校の担当の先生に相談してください。

〈担当する先生へのお願い〉

①の場合には、応募する生徒全員に本募集要項に同封された「申込書」の①個人(生徒)申込み欄に記入させ、担当する先生が「申込書」の②学校申込み(一般会場)欄に記入してください。応募する生徒の人数分の参加申込書と、先生が②に記入した参加申込書をまとめて、郵送申し込み送付先にお送りください。

②の場合には、担当する先生がWEB申込専用ホームページ(下記アドレス)にアクセスし、特例会場の設置条件を読み同意されたうえで、申請書をダウンロードして必要な項目に記入の上申請をしてください。実行委員会で協議して申請の可否を検討します。特例会場として認められた場合、①と同様に、応募する生徒全員に本募集要項に同封された「申込書」の①個人(生徒)申込み欄に記入させ、担当する先生が「申込書」の③学校申込み(特例会場)欄に記入してください。応募する生徒の人数分の参加申込書と先生が③に記入した参加申込書をまとめて、郵送申し込み送付先にお送りください。

大会参加費等について

大会参加費は無料です。

ただし、会場までの交通費等は参加者の負担となります。

国際地理オリンピックは大学のAO入試・推薦入試等の特別入試の対象です。

科学地理オリンピックで日本代表として選抜された者あるいは日本国内で行われる代表者選考等で一定の成績を収めた者を対象として、筑波大学・東北大学・駒澤大学では、特別入試の対象となっています。

WEB申込み専用ホームページ

<https://contest-kyotsu.com>

参加申込みに関するお問い合わせは

☞科学オリンピック共通事務局へ!

・TEL 042-646-6220(平日12:00～13:00／17:00～19:00)
・E-mail info@contest-kyotsu.com

郵送申込書送付先

〒192-0081 東京都八王子市横山町10-2八王子SIAビル2F
(株)教育ソフトウェア内 科学オリンピック共通事務局 宛て

ご提供いただいた個人情報は以下の者が適正に管理いたします。

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

実行委員長 井田 仁康

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

事務局長 生田 清人

6.個人情報に関するお問い合わせについて

ご提供いただいた個人情報に関して、開示、および開示の結果、当該情報が誤っている場合に訂正または削除のお申し出をいただいた場合には、速やかに対応させていただきますので、下記までご連絡ください。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

公益社団法人 日本地理学会 事務局気付

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会 事務局

E-mail:geolympiad@ajg.or.jp

際地理オリンピック選抜大会」の実施運営のため、管理されます。提供するにあたっては、主催者は個人情報の適切な管理を実施いたします。
・ご提供いただいた個人情報の一部を、参加申込者の受験される第1次選抜の会場に対して、第1次選抜当日の出欠確認のために必要な範囲内で一時的に提供し、使用後返却回収します。

3.個人情報の業務委託について

・主催者は「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の申込受付業務および受験業務の一部を株式会社教育ソフトウェアに業務委託しております。

4.個人情報のご提供の任意性について

個人情報のご提供は任意ではありませんが、必要な情報がご提供いただけない場合は、上記利用目的の遂行に支障が生じる可能性がありますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

5.個人情報の管理者について



第12回 国際地理オリンピック iGeo Tver 2015

会期 2015年8月10日(月)～8月17日(月)
会場 トヴェリ(ロシア)およびその周辺

iGeo Tver 2015を目指す方へのOBからのアドバイス

なかにしまさ き 中西公輝さん

洛星高等学校卒業

東京大学 文科一類 在学中

iGeo Kyoto 2013

日本代表チーム・選手

2013年に京都で行われた
世界大会に派遣されました

5大陸すべてから代表が京都に集い、地理力を競い合う。「地理」という接点で集まった世界中の人们と過ごした1週間は、それだけで自信を持って楽しく、また、他の何にも変えられない大変大きなものを得ることのできる1週間だったと言えます。その中でも特に大きかったと思うのは、それまで地図の上の平面的な世界でしかなかった世界中の国が、急に実体を伴った立体的なものに感じられるようになったということです。確かに、他の科学オリンピックでも似たような体験ができるかもしれません。しかし、地理オリンピックは参加者が「地理」という接点で集まっているからこそ、より深い話ができる、世界中の国について多くを学べるのです。

地理は日本では社会科ですが、世界ではむしろ理科に近いという感覚の国もあります。このような感覚の違いも乗り越えて、世界レベルで要求されることに応えるのは大変なことかもしれません。ですが、始まりがなければ何もありません。ぜひ、皆さん、世界を知り、世界の中での自分を確認する機会を自ら掴んでみませんか。

ひら が み さ 平賀美沙さん

桜蔭高等学校卒業

東京大学 理科一類 在学中

iGeo Kyoto 2013

日本代表チーム・選手

2013年に京都で行われた
世界大会に派遣されました

地理オリンピック世界大会の大きな魅力の一つは国際交流ができます。世界各地からの参加者ととても高いレベルの地理の議論ができます。お互いに知識の前提があるので非常に有意義です。大学生になると国際交流ができる機会は多くありますが、これほど参加者のレベルと情熱が期待できるものは少ないように思います。それに加え、競争の中で交流することで結びつきを強められます。世界大会での友達に対しては、大学生になってから知り合った海外の学生よりもはるかに思い入れが強く、また会いたいと感じます。本当に貴重な経験でした。

みなさんの中には日本代表なんて自分には無理だと思っている方もいらっしゃると思います。私もそう思っていました。しかし、地理を愛する気持ちさえあれば誰でも代表を狙えるのです。そもそも、あれほど面白い地理の問題を出題してくれる試験は他にないです。

地理オリンピックで問われるるのは地理の知識の応用力と、人間としての柔軟性です。高校地理の知識量がすぐに得点になるわけではありません。生活中で常に地理的・多面的な視点で物事を見ることは、オリンピックのためだけではなく、人生の豊かさにも繋がるように思います。常に高みを目指して頑張ってください。

テストの様子(ケルン大会より)



記述式テストの問題配布



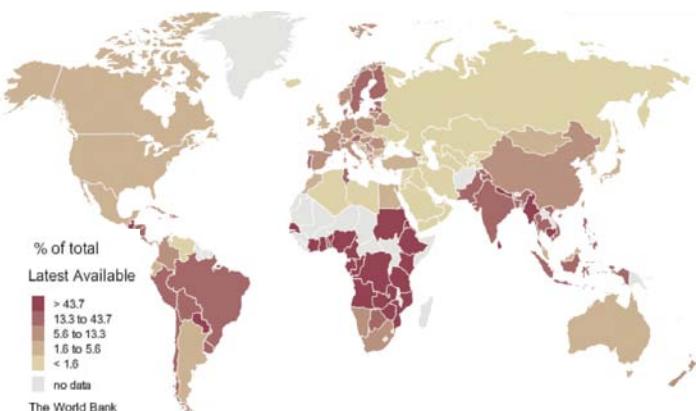
フィールドワーク直前の説明



フィールドワークの様子

ここでは科学地理オリンピックの国内選抜試験で出題された問題を紹介します

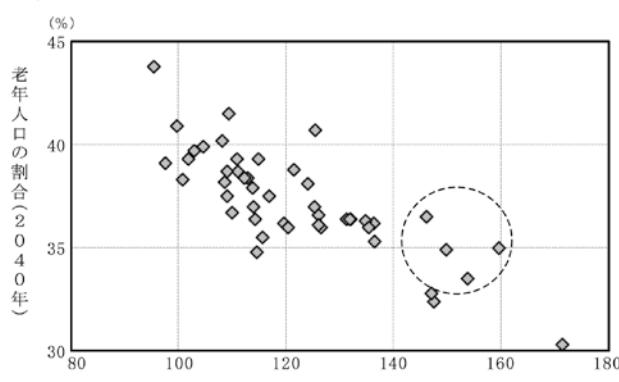
マルチメディアテスト(MMQ)



World Bank eAtlas of Global Development

記述式テスト(WRT)

図は、都道府県別に見た2040年における老人人口の割合と、2010年を100とした時の2040年の老人人口の指標を示したものであり、図中に○印で示されている四つは、東京大都市圏(東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県)の都県である。



老人人口の割合(2040年) 老年人口割合の全国値……36.1%
老人人口の指標(2040年) 老年人口の指標の全国値……131.2

(国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推人口(平成25(2013)年3月推計)』より作成)

問題1 What does this map show?

- ① Literacy rate, youth female, % of females ages 15-24
- ② Fossil energy consumption, % of total
- ③ Prevalence of HIV, female, % ages 15-24
- ④ Combustible renewable and waste, % of total energy

Point

MMQは、地図や図、写真などから、そこに示されている地理的な事象や情報を読みとるテストです。いつも地図帳や資料集などにある主題図や統計、写真から読み取れることは何かを考える練習をしてください。この図では、アフリカと南アメリカの赤道付近と南アジア、東南アジア、北欧に数値の高い地域があることに着目して考えます。答えは④。

問題1

図中○印で示された都県では、なぜ、このような老人人口の予測がなされると考えられるか。これらの都県における、現在までの人口移動の特徴を踏まえ、次の二つの語句を用いて説明しなさい。

〔生産年齢人口〕〔郊外化〕

Point

戦後の日本の社会の変化を、戦後の復興期、高度経済成長期などに区分して、それぞれの時代の産業活動と人口移動の関わりに着目して考えます。

問題2

今日、もしあなたが図の○印で示されたような都県で、高齢化対策の仕事に携わるとしたら、その地域に対応したどのような提案をしますか。あなたの提案を二つ述べなさい。

Point

地理オリンピックでは、これまでの経過を地理的に考察したこととともに、今後、どのようにすればよいかを問う問題が出題されます。



＼2014年8月にポーランドで行われました／

第11回

国際地理オリンピック iGeo Poland 2014



文部科学省で大会の報告をした日本代表団

— ポーランド大会の日本代表生徒と引率教員のレポート —

世界中から選手が集まって3種類の地理のテストをする…地理オリンピックの良さはこれだけではありません。今年は、ポーランドのクラクフで開催でした。美しい景観や街並み、世界遺産を肌で感じ、他国の選手と交流し、文化の違いを知り、友達を作る…という非常に密度の濃い一週間を過ごせることになります。今まで学んできた世界を深く知るには、絶好の機会です。自分には無理かもしれないと思うことなく、ぜひ挑戦してください。

日本代表引率教員 井上明日香

地理オリンピックは思った以上に体力勝負だったというのが一番の感想です。15時間の移動と、試験、フィールドワークの連続はとても大変でした。特にフィールドワークは50haものフィールドを調査しなければなりませんでした。とはいえ、体力を使えば使うだけ、充実した時間になり（遠足で3つの世界遺産にいきました）、古都クラクフでの時間を色々な国の生徒と過ごせたことはとても貴重な体験となりました。会期を通して多くの先生方に様々な形でご指導いただいたことを感謝しています。

日本代表生徒 中野響己 筑波大学附属駒場高等学校2年（東京都）

地理という理科や歴史的要素も含む幅広い学問を肌で感じた7日間。最初は海外の選手たちの英語力に圧倒され自信を失いかけましたが、何より会話するのが大事だと気づいてからは本当に多くの友達を作ることができました。悔しい思いもしたものの振り返ると楽しい思い出でいっぱいです。最後に「代表に選ばれたらクラクフに行ける」という何とも魅力的な言葉で私を誘って下さった学校の地理の先生はじめ関係者の方々に感謝いたします。

日本代表生徒 金田懐子 東京都立武蔵高等学校3年（東京都）



エクスカーション（アウシュビッツ）



大会前の事前合宿（クラクフ）

文化交流会

The International Geography Olympiad is a competition for high school students from all over the world. Four high school students from Japan are selected through competitions and are rewarded by the participation in next Olympiad. Students are supported by additional training in Japan and by two team leaders assisting during the Olympiad, where participants make friends with students from many other cultures. Participation at the Olympiad – or even winning a medal – is a great experience that will never be forgotten.

日本代表引率教員 Thomas Parkner

地理オリンピックでは、メダルを取ることは出来ませんでしたが、地理オリンピックでしかできない貴重な経験をすることができたと思います。特に、海外でフィールドワークをするという地理オリンピックならではの特徴が挙げられます。50haを超える草原を走り回ることは日本ではなかなか出来ません。また海外の若者との交流も楽しいものでした。

最後に地理オリンピックに携わる皆様に感謝の意を表したいと思います。

日本代表生徒 野村建斗 筑波大学附属駒場高等学校3年（東京都）

世界大会は、すごく楽しかったです。今まで教科書の上、図の上での存在でしかなかった様々な国的学生たちとかかわることで、視野が広がりました。しかし、試験やポスタープレゼンテーション、交流の時間等では、自分の英語力、地理力、論理的思考力の不足に歯がゆい思いをする場面も多々ありました。大会の結果も悔しさの残るものになってしまいました。それでも、未来につながる貴重な経験になったと今は確信を持って言えます。

日本代表生徒 飯島鞠瑛 茨城県立水戸第一高等学校3年（茨城県）